

2019 年度 事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. **パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。**
 - ・ 子育てを応援する法人として、子育て家庭に寄り添い、必要とされる事業の在り方を検討しつつ、安定した運営に取り組みました。
 - ・ 保育所の子どもが犠牲になる事件が続き、研修受講者を中心に緊急時の法人としての対応について検討しました。
 - ・ 安定した法人の事業運営のために、必要な資格を取得したり、保有する資格を生かしたりして、所属する事業所を越えて活動をしました。

2. **子育て家庭をとりまく環境と社会情勢の変化に常に目を向け、必要な子育て支援は何か考え、取り組んでいきます。**
 - ・ 子育て当事者の声に耳を傾け、様々な生き方・考え方を受け入れ、家庭で育児をしたい人も、仕事に復帰したい人も応援しています。
 - ・ 行政や各事業所で必要とされる子育て家庭の力になれるように、連携し、できる限りの支援に取り組みました。
 - ・ 子育てを一人で抱え込んでいる人には、SOSを出してほしい、と発信しています。
 - ・ 地域での居場所を持たずに子育てを始める不安を和らげるために、出産前から地域につながる環境づくりと、産後に親子が安心して過ごせる場づくりに努めました。

3. **子育て家庭の視点からの防災、減災を、各事業所から発信してきます。**
 - ・ 区民会議主催の「青葉区防災・減災公開講座 2020」にパネラーとして参加し、東日本大震災の際の実情を伝え、福祉避難所に子育て家庭や障がい児者も含んでほしい、と提案をしました。
 - ・ 大型台風の影響により、初めて休館にした事業所ができました。今後は天災に備えてのマニュアル作りが必要です。
 - ・ 災害が身近なものであることを感じる年でした。防災・減災を日常の中に位置づけることの重要性を子育て家庭と共に考えました。

4. **パレット 20 周年に際して、これまでの活動を振り返り、地域にパレットの活動を発信します。また、青葉区の子育て支援をともに進める他団体との関りを深める契機とします。**
 - ・ メンバー全員の力で青葉公会堂において「パレット 20 周年」事業を開催し、20 周年記念リーフレットも作成しました。これまでに培ってきたネットワークを生かしてパレットの活動を発信しました。
 - ・ 満 20 周年を迎えた 3 月には、地元広報誌にもパレット 20 周年が取り上げられました。
 - ・ 20 周年の取り組みを通して、メンバーが改めて青葉区での子育て支援に取り組んできた法人の歴史を振り返り、大切にしてきたことを再確認することができました。その中で他団体と連携してこれから何をするか、次年度以降の活動を考える年になりました。

2) 事業内容

特定非営利活動にかかる事業

①保育室での保育に関する事業

《まーぶる》

1. 子どもたち一人ひとりが認められ、大切にされる保育を行うと共に、個々の発達に応じた関わりをしていきます。
 - ・ 子どもたちをよく見て、頻回利用や、定期預かりの慣れた子でもその日の体調や気持ちを考慮し、その子にとって楽しい一日を過ごせる関わりができるよう努めました。
 - ・ それぞれの発達やペースに合わせ、言葉がけや関りを行い、小さな成長を見逃さないように見守りました。
 - ・ 保育者への信頼感と認めてもらっているという自己肯定感を感じられるように、一人ひとりに合った応答的な関わりをもつように努めました。
 - ・ 保育者が誘導するのではなく、子ども自身が自主的に考え動けるように、援助の必要性を見極めて保育に当たりました。また、子どもの発見や行動に共感し、心の動きに気付くよう努めました。
 - ・ 障がいのある子や配慮が必要な子の預かり時は、安心してスタートできるよう、より丁寧な聞き取りを心掛け、保育中も無理なく参加できるような言葉がけや、その子に合った活動を意識して行いました。
 - ・ 保育者同士が情報を共有し、個々に応じた保育に共通の意識を持つことができました。
 - ・ 着替え、靴を履くなど、できる子にはなるべく自分でさせ、手伝いが必要な子には徐々にできるように手助けしました。
2. 子どもたちの気持ちや表情、何気ない日常の声に耳をかたむけます。
 - ・ その子の言動の真意をくみ取るようによく観察をし、落ち着いて接するように心がけました。
 - ・ 言葉や、普段の何気ない子どもたちとの会話を大切にしました。日誌に記録も残しました。
 - ・ 遊びや生活の中で、子どもたちの表情や気づきを受け止め、保育者がていねいに言葉に表し、共有しました。
 - ・ 子どもから発せられる言葉や表情、会話を大切にし、気持ちを意識しながら丁寧な保育を心掛けました。
 - ・ おとなしい子にも目を配り、楽しんでいるのか、寂しいのか、様子を見て声がけをしました。
3. 大切な命を預かる場所として、子どもたちが安全に過ごせることを最優先とし、保育環境を整える努力を続けます。
 - ・ 保育者間で話し合いをしながら、気づいた点を出し合い環境の改善につなげました。
 - ・ 日々の消毒、身の回りの整理整頓や使用しているものの手入れなど、細かく行いました。

- ・ 保護者に対して、大規模震災があった時の案内を作成、保護者会での周知等をし、災害伝言ダイヤルの体験日に録音、体験をお願いしました。
 - ・ 様々な災害を想定した防災訓練を毎月実施し、振り返りを行うことで、子どもをより安全に避難させることが出来るよう職員全体での意識を高める努力をしました。
 - ・ 子どもたちが安全に安心して過ごすことが出来るよう、保育室内外の点検、配置の確認を継続して行いました。また、耐震対策を再確認し、転倒防止具を取り付けました。
 - ・ ミーティングにおいて、環境から子どもの活動をより良いもの出来ることを、ウェブを作成し話し合い整えました。
 - ・ 活動の中で常に子どもの動線を考えながら、安全を意識するようにしました。
4. **日々の保育実践の積み重ねを通じて学び合い、保育の質を高めます。また、保育者間の連携を大切にします。**
- ・ 働く仲間同士で様々なことを学び合いました。保育者間の連携なくして安全で質の高い保育はできないと感じました。戸惑うことや疑問は質問して解決するよう努力しました。
 - ・ 子どもとのコミュニケーションがスムーズに行われた際のやりとりなどを日誌に記録し、保育者間で共有できるようにしました。また、どうしていくことがその子の最善か話し合いをもちました。
 - ・ 保育指針をわかりやすく解説している資料をミーティングなどで共有し、個々のスキルアップを目指しました。
 - ・ 保育者間で連携を取り、子どもの様子を伝え合い確認することで、短時間であっても子どもが安心して過ごせる保育を行うことを大切にしました。
 - ・ 毎月のミーティングにて、子どもの様子や保育環境の確認、ヒヤリハットから分かる改善点を共通理解のものとし、安心安全な保育に努めました。
 - ・ 全体で協力しながら個々のスキルアップができるよう継続していきます。
5. **地域の一員として繋がりを大切にし、様々な活動に参加できるよう努めます。**
- ・ 地域防災訓練、お祭り手伝いなどに参加し、交流を行いました。
 - ・ お芋ほりでお世話になった農家の方へ、子どもたちとお礼のカードを作り、送付しました。
 - ・ 戸外活動時も地域の方との繋がりを意識し、まず保育者が手本となり挨拶を交わすことで、子どもたちも自然と挨拶をしたり、手を振るといった姿が見られるようになりました。
 - ・ 中学生福祉体験ボランティア等の受け入れを通して、地域にこの様な子育てを助ける施設があるという事を知ってもらいました。
6. **一時預かりを通じて、近隣の子育て家庭に寄り添い、関係機関とも連携しながら必要な情報の提供やサポートを迅速に行えるよう取り組みます。**
- ・ 保護者とその子の様子をよく見て、保育者間で共有しました。関係機関とも協力しながら、助けが必要だと思われる親子に寄り添いました。
 - ・ 関連機関、近隣施設、民生委員等との交流の場に参加しました。見学もしていただけたことにより、活動の理解が得られたと思います。また今後、より迅速なサポートにつなげていきたいです。

- ・ 見学登録時に聞き取ったことや、預かりの中で保護者から出た子育てにおける不安、また預かり児のささいな発言を聴き逃さずに、保育者間で話し合い、必要な情報提供やサポートを行い、親力向上に努めました。また、保護者との信頼関係の構築に努め、相談の一步となる場であることを意識しました。

《家庭的保育室なないろ》

1. 子ども一人ひとりをよく見て発達課題を把握し、心身の成長をしっかりと支える保育をしていきます。
 - ・ 子どもの年齢・発達段階に応じた保育を行うとともに、個々の状況に応じた関わりを心がけることで、子どもたちが自己を発揮し、のびやかに活動する姿が見られました。
 - ・ 子ども一人ひとりが落ち着いて毎日の生活を送り、基本的な生活習慣を身に付けていくことができるよう、保育者と子どもとのさらなる丁寧な関わりを心掛けていきます。
 - ・ 療育センターの職員の巡回相談を受けることで、個々の子どもへの接し方等、アドバイスをもらうことができました。受けたアドバイスを生かして子どもと関わっていきます。
2. 家庭との連携を深めながら信頼関係を築き、保育者と保護者がお互いに良きパートナーとして、ともに子どもの成長を支え合っています。
 - ・ 連絡帳の記入や、送迎時に子どもの様子についての丁寧な対話を重ねることができました。今後も、保護者との信頼関係を築き、子どもについて共通認識を持つことができるよう、伝え方等工夫していきます。
 - ・ 子育てや、なないろへの要望などに関するアンケートを行い、希望者とは個人面談の機会を持ちました。保育室と家庭それぞれでの子どもの様子と対応を共有し、協力して子どもの育ちを支えることができました。
 - ・ 日々の保育の中での子どもたちの様々な姿・表情を撮影した写真を保護者にも見ってもらうことができました。
3. 併設の一時預かり保育室とともに活動する機会を通して、子どもたちが交流の幅を広げ、新しい体験ができるように見守ります
 - ・ 一時預かり保育室とは、毎日のお散歩や製作活動などを一緒に行う中で、様々なお友だちと接することにより、いろいろな経験ができ、成長につなげることができました。
 - ・ 一時預かり保育室のスタッフと、日々の預かり人数や子どもの様子、当日一緒に行う活動についての事前打ち合わせを行い、情報共有をすることで、安全に活動することができました。
4. 毎日の振り返りやミーティングでの話し合いにて、子どもたちの状況を共有することで、スタッフ間の連携を深め、保育内容の充実と保育技術の向上に努めます。
 - ・ 毎日の振り返りと月 1 回のミーティングで、子どもたちの様子や配慮すべきことを共有し、課題についての意見交換を重ねることで、共通の認識を持ち、連携して保育を行うことができました。
 - ・ 横浜市子ども虐待防止ハンドブックや人権擁護セルフチェックシートを基に内部研修を行い、日頃の保育を振り返り、子どもを尊重する保育に努めました。
 - ・ 保育園児に関わる事故を受けて、保育室としての対応と対策を検討しました。

5. 地域との交流を大切にしていきます。連携園や関係機関とのよりよい関係作りにも努めます。
 - ・ 連携園のいずみ青葉台保育園とは、健康診断、歯科検診や園庭利用の他に、1歳児クラスとの交流保育も行うことができました。今後も交流保育は回数を増やしていきたいと思えます。
 - ・ 地域の家庭保育室の2歳児と交流保育を行いました。
 - ・ 自治会に協力し、マンション居住の皆さんに青葉区報や回覧板など地域の情報を伝える窓口となっています。
 - ・ 行政からの監査で指摘を受けた件については、職員全体で検討して改善に努めました。
6. 食育活動において、野菜の栽培体験や調理の一端を担う体験、実際の食材に触れる経験をすることで、自分たちが口にする食材への関心を高め、食べる意欲へとつなげます。
 - ・ トマトやきゅうりの栽培体験、ふりかけ作りやクッキーの型抜き、カップケーキデコレーションなどの調理体験を行いました。ふりかけ作りでは、みんなで作った歌を歌い、そら豆のさやむきでは、いろいろな豆を使ってマラカス作りをするなど、食育を普段の遊びにもつなげていくことができました。

《一時預かり保育室なないろ》

1. 0～2歳児、定員7名の少人数の保育室の良さを生かしたきめ細やかな対応を行います。それぞれの発達過程にあった丁寧な保育を行い、子ども達が安心して過ごせる保育室にしていきます。
 - ・ 子ども一人ひとりが、安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時には保護者からの聞き取りを丁寧に行い、子どもの姿を観察し、個々の成長やその日の体調に応じて、細やかに対応しました。
 - ・ 個人記録をつけることにより、久しぶりに利用する際の参考になり、子どもの成長を追い、保育に生かすことができました。
 - ・ 初利用のお子さんの動きはわからないことも多く、特に散歩、公園遊びなど安全に過ごせるよう注意深く見守りました。
2. 保護者の気持ちや悩みに寄り添うことで、育児をサポートできるよう努めます。また、より一時預かりを必要とする家庭が利用できるよう、関係機関と連携していきます。
 - ・ 見学登録時には、安心して預けられる場所であること、預けることに対する抵抗が少しでも軽減するように、丁寧に説明することを心掛けました。また実際に預かりの様子を見てもらうことで、不安感を軽減するように努めました。
 - ・ 発育、発達、育児に不安を抱えている保護者の悩みをしっかりと受け止め、子育てに寄り添うように努めました。また気になる親子は記録し、時にはスタッフ間で共有して、親子でホッとできるような場所になるよう努めました。
 - ・ 言葉の壁から、子どもの状況をうまく伝えられないことに難しさも感じました。
 - ・ 関係機関と連携し、子育てに悩んでいる保護者の力になれるよう努めました。
 - ・ 緊急対応で預かった際には、他事業所や区に親子の様子を伝え、その後の見守りに役立つように配慮しました。

3. 事業を継続し、より良いものにしていけるよう、安定した運営をめざしますと同時に、横浜市への制度改善の必要性を訴えていきます。
 - ・ 利用者にアンケートを実施することで、保護者からの一時預かりの必要性、一時預かりの改善の要望など、利用者の意見を横浜市に結びました。
 - ・ 利用者や事業所が日頃から把握している声を、パブリックコメントを通じて届けました。
4. 小規模保育室併設型一時預かり保育室として、スタッフ相互の連携、合同での保育など併設型としての良さを生かしていきます。
 - ・ 小規模保育室と一緒にミーティングを行うようにし、より一層スタッフ同士の連携がスムーズになり、子どもたちの成長を見守ることができました。
 - ・ 両保育室の子どもが共に過ごす中で、年齢にあった遊びや見守りをすることができ、お互いに刺激し合う姿もみられました。
5. パレットの理念をもとに、一時預かり保育室として目指すべきものを、スタッフ間で話し合い、保育にあたります。振り返りやミーティングを通して相互にスキルアップを図ります。
 - ・ 研修で学んできたことをミーティングなどで共有しました。
 - ・ 横浜市子ども虐待防止ハンドブックや人権擁護セルフチェックシートを基に内部研修を行い、日頃の保育を振り返り、子どもを尊重する保育に努めました。
 - ・ 保育園児に関わる事故を受けて、保育室としての対応と対策を検討しました。
 - ・ 日々の振り返りや月 1 回のミーティングで情報共有し、スタッフ間のコミュニケーションに努めました。

《いるかくらぶ》

放課後、就労等により家庭に保護者がいない小学生が、安心して安全に過ごす事ができる居場所を提供します。

1. 子どもたちの安心安全を第一に考え、子どもたちが自ら考え安全を確保する力を育み、子どもたち各々が放課後の時間を豊かに創造できるよう支援します。
 - ・ 公園や室内、マンション内での安全な過ごし方について、小さなケガなどがあるたびに子どもたちが主体的に話し合う時間を作り、情報共有に努めました。今年度は、ホワイトボードを活用し、どの子にも分かりやすく話をするようにしました。小さなケガを共有することで、危ない場所には近づかなくなるなど、子どもたちも気をつけるようになり、大きなケガもなく、安全に過ごすことができました。
2. 異年齢の集団の良さを生かして、遊びや活動を通して、自他共に尊重し、お互いに育ち合える環境を作ります。
 - ・ 当番活動の単位である班を異年齢で構成することで、毎日の活動を通して、互いに学び合える環境作りに努めました。けん玉やコマ回し、ルービックキューブでは、上手な子に年下の子たちが憧れ、やったことのないことに挑戦する気持ちと、教え合う雰囲気は自然に生じていました。外遊びでは、鬼ごっこや大縄など、集団遊びを通して、自他共に尊重する雰囲気ができました。お楽しみ会では、合奏や劇など出し物をみんなで創り上げる過程で、子ども同士の心の成長がたくさんありました。

3. 一人一人がほっとできる居場所になるよう目配り、心配りに努めます。
 - ・ 週の登所日数が少ない児童や、ならいごとが多い児童も、いるかに来るとほっとできるよう、班編制や声かけ、遊びの環境作りに配慮をしました。子ども新聞を購読して子どもたちの目にとまる場所に置いていることは、児童同士が話をするきっかけを作るとともに、読書に親しむ環境作りに貢献しました。下校後、本を読むことで一息つく児童も多いです。年度末は臨時休校で社会的に急な予定変更が重なりましたが、いるか内は一層いつも通りの穏やかな環境と雰囲気作りに努めました。
4. 学校と保護者とくらぶとパレットで子どもたちを見守り、地域が協力して子どもたちを育めるようお互いに協力します。
 - ・ 学校とは、訪問やお便りなどで緊急時の対応について確認したり、下校時の歩き方や学校及び学童の様子を共有したりするなど、連携をとりました。保護者とは、お迎え時に丁寧に話をすることに努めました。お便りでは、個々の児童のよさや、集団としてのよさ、を共有するとともに、特に安全についての啓発の発信に努めました。
5. 保護者会の協力と理解を得ながら、パレットと連携し、イベント等を通して地域の理解を深めます。
 - ・ 第3公園愛護会では、日常的な公園整備や、いるか保護者会と連携した年2回の公園清掃を通して地域に貢献しました。季節に応じた花植えは、公園を使う人たちの心を和ませています。秋には、市ヶ尾高校の生徒たちが公園清掃ボランティアに来て、落ち葉を集めるなどして児童と交流できました。
 - ・ 保護者会行事のおもちつき大会は80名程の参加があり、地域の親子も楽しく餅つきに挑戦していました。
 - ・ パレット20周年行事では、いるかのけん玉等を使い、体験コーナーを設置したことで、地域の親子が交流する姿が見られました。
6. 保護者が就労している間、安心して預けられる場所を目指し、長期的な運営計画を検討し取組みます。
 - ・ 運営主体変更に伴う変更点については、パレット会議や保護者会等で共有し、スムーズに新しい運営に切り替えることができました。運営について、将来を見据えて考えることができました。保育内容については、創設時から大事にしてきた部分を変えることなく活動をおこなったので、子どもたちも安心して毎日を過ごせている様子でした。
 - ・ 開設16年目で不具合があった家電について、いくつか修繕や新調を行ったことで環境が改善しました。

②子育て中の親子の交流事業

《びよびよ》

1. 近隣や地域の親子、家族、子育て支援者に「いつでも安心して利用できる広場、遊びに行ける広場」があることを知らせます。広場の情報や地域の情報を通信やホームページで発信していきます。
 - ・ 広場で親子が楽しんでいる様子や、イベントで製作した手作り品のアップ、講師の先生のイベントの様子などをブログで発信しました。ブログを見て見学に来てくださる

方やイベントの申し込みが増えました。続けて利用してもらうことで、会員登録をしてくださる方もいますが、育休中だけの利用の方も多かったです。

- ・ 広場の入り口がわかりにくい、目印が小さいという声があり、外看板を置きました。
 - ・ 3月は新型コロナウイルスのため広報には行けませんでした。地域育児教室(小黒、山内、あざみ野、黒須田)や子育てひろばに伺い、広場の紹介やイベント、講座の案内をしました。
 - ・ リーフレットを新しくしました。今後は配架できる場所を探していきたいと思っています。
 - ・ 自治会回覧板に毎月通信100部配布、外部は900部配架しました。
2. チームワークを大切にし、自主研修や外部研修で得た情報を共有することで、スタッフのスキルアップに繋げると共に、いつでも安心して遊びに行かれる広場、居心地の良い広場になるよう努めます。
- ・ 外部研修には積極的に参加し、スタッフのスキルアップを図ると共に、スタッフ会議で情報を共有し、より良い広場になるよう話し合いました。
 - ・ 「広場とは?」「スタッフとしての役割とは?」などの自主研修を行うことで、スタッフとしての立場や対応の仕方など話し合いました。利用者との何気ない会話の中から聞いた悩みの内容はスタッフ間で共有すると共に、個人情報保護を保護し丁寧な対応に努めました。
 - ・ イベントがある時は、親子ボランティアやサポーターに積極的に入ってもらいました。特に初めて利用される方には、利用者目線で接してもらえ親子ボランティアやサポーターの力は大きかったです。
3. 親子の声を活かし、子育て家族が交流しやすい広場づくりを目指します。
- ・ 新企画ママサロンを不定期で開催し、物作りの楽しさを通して利用者同士の交流の場になりました。
 - ・ 利用者からの声を活かし、新しく講座を設けました。親子が楽しんで触れ合う時間や学びの場になりました。(Baby マッサージ、リトミック、歯科衛生士さんがいる日)
 - ・ ぴよぴよに隣接するスターチャイルド江田ナーサリー保育園のテラス開放や、山内図書館お話し会に参加しました。一人ではなかなか行けない親子でも、利用者同士の声かけで参加できる機会になりました。
 - ・ 隔月で日曜広場を開催し、平日に利用できない親子への声に応えました。
4. 地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動への積極的な参加など繋がりを大切にしていきます。
- ・ 江田地域の公園清掃へ参加し、地域の方と触れ合う機会になりました。また、夏祭りには広場を無料休憩所として、地域の方に利用してもらいました。平日に来られないパパに広場を見てもらうことができ、親子で遊ぶ姿を見ることができました。
 - ・ 國學院大學「絵本キャラバン」の学生に絵本の読み聞かせに毎月来てもらいました。大学生と親子の温かい交流の時間がもてました。
 - ・ 季節のイベント(ハロウィン)では、地域の方にご協力いただき、親子で交流する機会をもつことができました。

- ・ 県立高校の女子生徒が学校の課題の一環で、将来の職業（保育士）に就くため、子育て施設の見学をしたいとの申し入れを受けました。若い世代の方に広場を見てもらう良い機会となり、利用者親子と高校生が触れ合う貴重な時間になりました。
5. **パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、子育て家族を応援します。**
- ・ 他事業所のお餅つき大会の行事に参加し、利用者親子との交流ができました。
 - ・ まーぶるの登録説明会を広場で行い、保育室の様子や子どもとの関わり、遊びなど直接聞くことができ、安心して登録してもらうことができました。
 - ・ 地域の保健師、赤ちゃん訪問員と連携をすることで、子育て親子への情報が届き、利用に繋がりました。
 - ・ 青葉区地域子育て支援拠点と青葉区内の親と子のつどいの広場事業者による、青葉ひろば会議に出席し、広場の状況や情報交換を定期的に行いました。また、各広場のスタッフを対象とした研修も行い参加しました。

《ぶーぶーしえすた》

1. **育休中の親子や他地域からの転入者などさまざまな親子が地域とのつながりを持ち、親子で安心して過ごせる居場所を目指します。**
- ・ 積極的にイベントを行い（月に10日程度）、広場に来やすい環境を作りました。（Babyタイム、お話し会、手作りの日、英語で遊ぼう、リズムで遊ぼう等）
 - ・ 週5日常設で広場を開催し、誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように家具やおもちゃ、本などの環境を整えました。
 - ・ リピーター利用者が広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあう、助け合う場になりました。
 - ・ Babyタイムやお話し会、英語で遊ぼう、リズム遊びのイベントは、お子さんを膝にのせて親子で一緒に楽しむイベントとして好評でした。
 - ・ 手作りの日は短い時間ですが、子どもと離れて物づくりに集中し、利用者同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士でお子さんを見守りあうこともできました。
 - ・ 広場玄関にイベントの紹介やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらえました。
 - ・ 育休の方向けのおしゃべり会は、保育コンシェルジュをお迎えして開催しました。たくさん親子が利用し、とても好評でした。今年度も開催したいです。
 - ・ 初めての方や初心者でも安心して来所出来るように、イベントで初心者の会を開催しました。
2. **ワーカー・スタッフ・ボランティア（親子ボランティアを含む）のチームワークを大切にしていき、外部研修などを積極的に活用しスキルアップしていきます。**
- ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
 - ・ 相談内容は個人情報保護し、外部にももらさないことを厳守しました。

- ・ 気になる親子や配慮が必要な場合は、スタッフ会議で情報共有を行い、場合によっては地域の保健師や子育てパートナーに相談し、ともに見守りました。
- 3. 地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。**
- ・ たまプラーザ地域ケアプラザ、山内ひろばなどで出張ひろばを開催する予定でしたが、中止となりました。
 - ・ たまプラーザ次世代タウンミーティング、保育子育てネットワーク作り、ファミリーリソースプロジェクトなどに積極的に参加し地域の情報交換をすることができました。また、イベントとしてブースを出し、普段ひろばを利用していない地域の親子と交流することができました。
 - ・ 地域育児教室(3月)は中止となりましたが、子育てひろばにゲストとして遊びに行き、親子の触れ合い遊びやお話し会をすることができました。
 - ・ 美しが丘ケアプラザのお祭りに参加しました。
 - ・ たまプラーザ商店街の夏祭りに参加し、利用者の家族や小学生になったお子さんと再会でき、良い交流の場となっています。
- 4. 他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所とも連携して子育て支援の充実に努めます。**
- ・ ネットワーク会議に参加することで、保育園、療育センター、センター園の方の話を聴くことができました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。
 - ・ まーぶるの登録説明会や子育てサポートシステム入会説明会など各事業所の情報などを利用者へ伝えました。
- 5. 広場での情報提供、毎月の通信の発行、ブログなどで広場が身近にあり、気軽に来てもらえるよう情報を発信していきます。**
- ・ 区内の育児教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示しました。
 - ・ 保健師が開催している育児教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をしました。
 - ・ また、保健師、主任児童委員ともお話することで情報交換もできました。(山内、たまプラーザ、あざみ野)
 - ・ 商店街の方々や自治会の方々からお祭りの情報や親子も楽しめるイベント情報を入手し、利用者に知らせることができました。
 - ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらっており、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。
 - ・ ブログや通信(毎月発行)で広場の様子やイベント報告、今後の予定を広報しました。
 - ・ たまプラーザ地域の保育園情報などをわかりやすくファイルし、利用者に知らせることができました。一時保育の保育園情報も載せました。

③その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《ラフル》

1. 広く区民にラフル7つの機能を知らせていきます。
 - ・ 区の広報誌、ラフルのHP・ニュース、廣田新聞社が毎月区内8万部ポストインするHiRoTaRianKidsの紙面、itscomラジオ出演で広く区民にラフルの存在を知らせました。
 - ・ 青葉区内の東急田園都市線の駅を含む区報を置くPRボックス19カ所にラフルニュースを配架しました。今後も多くの区民の目にとまるよう、広報先を広げていきます。
 - ・ 民生委員、主任児童委員、青少年指導員、地域ケアプラザのコーディネーターの集まり、公私合同保育園長会、小中校長会の他、商店会の会議など地域で行なわれる会議でもラフルの事業や役割を紹介しました。
 - ・ 妊娠期の家庭に向けて、母子手帳交付時、母子コーディネーターからの発信時、母親学級初日、両親教室参加時にラフルリーフレットや、ラフルのプレママ向けチラシを配布し、生まれる前からのラフル周知に努めました。
 - ・ 区で行う赤ちゃん訪問に横浜子育てサポートシステムの紹介資料を提供し、早い時期から当事者への機能周知に努めました。
2. 出産前から子育て世代が利用、活用できる拠点としての役割を果たし、親も子も地域でのつながりを感じられるよう努めます。
 - ・ 中高生のボランティア、大学生の実習を積極的に受け入れ、拠点の役割について伝え活動してもらいました。
 - ・ 小学生を対象にした見学デイを開催し、赤ちゃん人形の抱っこ体験や妊婦体験を実施しました。
 - ・ 妊娠期から訪れやすくするために、プレパパプレママ向け企画充実に力を入れました。全ての会において、情報提供、先輩である利用者との交流を促し、ひろばの紹介を行いました。
 - ・ プレパパがパパと交流する「パパプレパパあつまれ」の開催を、パパの子育て教室、母親学級で周知し、実施しました。
3. 青葉区の子育て支援関係者が互いに理解し合い、子育て家庭を見守るための連携を図ります。
 - ・ 「子育てネットワーク連絡会」や出向いていく「ラフルひろば mini」をはじめ、各種会議や施設間のつながりの集まりには積極的に参加して関係を築きました。
 - ・ 拠点のひろばで自身の活動を紹介してもらった「ひろばゲスト」は今年度も継続し、新たにケアプラザ、地区センター、コミュニティハウスに協力を得ることができました。
 - ・ 主任児童委員の定例会、赤ちゃん訪問員の定例会、青少年指導員の定例会で横浜子育てサポートシステム事業を紹介し、地域の個人として子育て家庭を見守る活動への参加もお願いしました。
 - ・ 区民活動利用施設の交流会から、多世代交流の「みんなのカフェ」を持ち回りで開催することを決めました。（サテライトで3月実施予定、中止）
 - ・ 子育てサークルへは、年2回のサークルリーダー交流会開催と希望により物品、絵本の貸し出しを行いました。サークルリーダー交流会での情報交換は、サークル支援とし

だけでなく、ラフルが今の子育て環境を理解する場として貴重な機会となっています。

4. 当事者、支援者、地域の人にラフルを活用してもらうため出掛けていきます

- ・ 区内 64 カ所の施設や子育てひろばへ年 2 回情報ファイルの更新に回り、ラフルの周知を続けています。
- ・ 今年度も「ラフルひろば mini」として出向き、開催施設とその地域の子育てを応援する人との関係作りにつとめました。「ラフルひろば mini すずき野地域ケアプラザ」での取り組みは、地域の方が新しいひろばを作るきっかけとなりました。
- ・ 地域ケアプラザに、ニュースを毎月直接届けることにしました。約束をしてからの訪問でなかったため、担当者と話ができないことも多く関係を深めるには至りませんでした。次年度は形を変えて地域ケアプラザとの関係を深めて行きます。
- ・ 小児科、産婦人科へのラフルリーフレットの配架を依頼するために出掛けました。
- ・ ハマハグの登録をお願いするために青葉台周辺の店舗に出掛け、ラフルの周知を進めました。